

南山 宗教文化研究所

Nanzan Institute for Religion & Culture

南山宗教文化研究所 研究所報

第 17 号

2007 年

もくじ

はじめに	ポール・スワンソン	3
世界は変えられる——「希望」のかけ橋をつなぐ旅	ジェーン・グドール	4
コンヴァージョンの社会科学的研究・再考——概念・方法・文化	川上恒雄	18
書評特集		
林淳『近世陰陽道の研究』を読む	大谷栄一 編	30
J・E・ケテラー（岡田正彦訳）『邪教／殉教の明治		
——廃仏毀釈と近代仏教』を読む	川上恒雄 編	47
ヤン・ヴァン・ブラフト元所長を偲んで（1928-2007）	ヤン・スィンゲドー	63
追悼 ヤン・ヴァン・ブラフト（1928-2007）	J・W・ハイジック	67
旧師旧友		72
昨年の行事		74

スタッフの研究業績	79
<i>Japanese Journal of Religious Studies</i> vol. 33 (2006) の目次	85
研究スタッフ	87

はじめに

この一年、南山宗教文化研究所の活動はさらに拡大した。ジャーナルや学術書の編集・出版、国際会議、さまざまな研究会の開催、等とともに、多くのプロジェクトが実施された。なかでも特筆すべきことは、「科学・ころ・宗教」プロジェクトが第二段階の GPSS-MAP(Major Awards Programme) として選ばれ、更に三年間続くことが決まったことである。「科学と宗教」のテーマの活動やスタッフが増え、一つの新しい試みとしてブログ (<http://gpss-japan.cocolog-nifty.com/blog/>) をたちあげた。是非ご覧いただきコメントを下さるようお願いしたい。また、「日本の哲学」プロジェクトは「科学研究費補助金」に採択され、本格的な活動が続いている。更に、65 年間発行されてきた *Asian Folklore Studies* (アジア民俗学誌) は今年度から宗教文化研究所が編集責任を担当することになった。

『所報』の内容もこれらのさまざまな活動を反映している。ジェーン・グドール博士の講演が可能になったのは、「科学と宗教」プロジェクトの一環としてであった。他の内容として川上恒雄氏(2006～7 年度研究員)の論文が挙げられる。また、書評研究会が盛んに行われ、それらの内容を掲載することにした。

最後に、本研究所の最初の所長として献身的に研究所を主導してきたヤン・ヴァン・ブラフト氏が本年 4 月にこの世を去り、研究所のところに空白が残った気がする。長年、南山などで生活をともにしたヤン・スインゲドー氏とジェームズ・ハイジック氏がお別れのことばを記している。

今年の英語版 *Bulletin* (31 号) には、同じくグドール博士の講演内容などを掲載した。日本語版と異なっているのは、「科学と宗教」プロジェクトについての報告、辻村志のぶ氏の「宗教と教育——可能性としての宗教の社会的役割」の英訳や、他の論文も掲載している点である。日本語の『所報』と英文の *Bulletin* はいずれも宗文研のホーム・ページでみることができるので、是非参照することをお勧めしたい。

2007 年 6 月 15 日
所長 ポール・スワンソン

旧師旧友

本研究所で研究所員・研究員をしておられた方々からお寄せいただいたご近況をお伝えいたします。お名前のあとのご所属は2007年4月現在のものです（到着順、敬称略）。

鳥巢義文（南山大学）

去る3月に司祭叙階の25周年の記念日を迎えたところです。それを機会に『夢の途中』というエッセイ・説教集を出版する準備をしています。また、2007年度は春から勤務先での役職の一つから解放されますので、去る2年間依頼されていたながらも遅々として捗っていなかった原稿執筆を完成させねばと心しているこの頃です。

石脇慶總

一昨年11月にカトリック鳴海教会主任司祭の職務から解放され、現在はただの神父として毎日毎日を丹念に生きています。遊行期に入りましたので、対外的な活動もなく、静かにお迎えを待っている今日この頃です。— 合掌。

長谷千代子（総合地球環境学研究所）

宗文研の皆様、ご無沙汰しております。

私は今、ひよんな縁から総合地球環境学研究所というところでプロジェクト研究員をやっております。グリーン・ツーリズムの広がりを環境倫理の普及という面からながめながら、現代における「宗教的なもの」の一つのホットスポットのありかを探り当ててみたいと思っています。また、年内に博論を出版するのが今年の目標です。

なかなか名古屋に行く機会がありませんが、南山でのシンポジウムや談話会があればできるだけ参加して勉強させていただき

たいと思っております。

奥村浩基 (Fo Guang 大学)

ご無沙汰しております。この一年をふり返りますと、本当にさまざまな恵みを頂戴することができました。多くの方々のお支えがあったこそ、一つ一つの大役を無事に勤めさせて頂けたと思っております。これからも微力ながら一層努力精進していきたいと思っております。— 感恩。

クラーク・チルソン (Pittsburgh 大学)

2004 年に “Hidden Buddhists: How and Why Three Shinshū Confraternities in Japan have been Secretive” という論文で博士号を修得しました。2005 年 7 月から 2006 年 8 月まで Pacific Lutheran University で助教授として勤務した後、2006 年 9 月から University of Pittsburgh の宗教学科に助教授として勤務しております。

現在、アジア諸宗教、特に日本における宗教を教えつつ、浄土真宗または空也上人についての研究に励んでいます。

トーマス・カーシュナー (花園大学・国際禅学研究所)

ここしばらく国際禅学研究所で、Ruth

Sasaki 氏がかつて英訳した『臨済録』の改訂作業をしております。今年の夏までには終えたいと思っています。

昨年 5 月に自叙伝『禅僧になったアメリカ人 トーマス・カーシュナー その半生記』(禅文化研究所) を出版しました。実のところ本来の意味での「自叙伝」ではなく、語り下ろしです。それを日本人のライターにまとめていただきました。この本が思いもよらない反響を呼び、NHK の「心の時代」という番組に出演したりもしました。

こうしたこと以外では、相変わらず臨川寺で掃除の日々を送っております。

ヤン・スィングドー (オリエンス宗教研究所)

南山大学を退職して早くも 10 年以上になりましたが、相変わらず忙しい毎日が続きます。東京のオリエンス研究所での仕事の他に、世界を股にかけているような感じです。アフリカのカメルーンやフィリピンの大神学院で「異文化コミュニケーション」を教えたりしているものですから、日本から離れている期間がかなり長いです。でも、あくまでも日本は私の「基地」になっております。年をとるにしても、頑張りたいと思います。

昨年の行事

2006 年 4 月 ～ 2007 年 3 月

2006 年

- 4 月 3 日 Paul Atkins (University of Washington) が 6 ヶ月の研究のため来所。
- 4 月 4-10 日 Paul Swanson と Benjamin Dorman が Association for Asian Studies の年次大会出席のためサン・フランシスコに出張。同大会では *Nanzan Guide to Japanese Religions* についてのパネルおよび同書の出版を祝うハワイ大学後援のレセプションが開かれた。
- 4 月 11 日 Thomas Kasulis 南山諸宗教研究講座（ローチ・チェア）初代客員研究所員が 6 ヶ月の研究のため来所。
- 4 月 14 日 コンボン研究所顧問の井上恵太氏が来所。
- 4 月 21 日 名古屋大学の黒田光太郎教授らが翌 22 日の「サイエンス・カフェ」（日本学術会議主催、文部科学省後援）の打ち合わせのため来所。
- 4 月 22 日 Paul Swanson が京都大学霊長類研究所の松沢哲郎教授と、名古屋の三省堂書店で開かれた「サイエンス・カフェ」で「心の進化——比較認知科学と宗教学の対話」というテーマで対談。
- 4 月 22 日 James Heisig による 20 年以上続いた「〇ハ」公開セミナーが終了。
- 5 月 1-5 日 Thomas Kirchner（元編集部員）が Ruth Fuller Sasaki による「臨濟録」の注釈付英訳書の改訂作業のため来所。
- 5 月 12-14 日 第 13 回南山シンポジウム「科学・こころ・宗教——科学から見る『こころ』の意義」を開催。
- 5 月 16 日 James Heisig が学会出席のためバルセロナ、ボローニャ、ライデンに出張。上田
-6 月 2 日 閑照氏に同行し、通訳や対談もした。
- 6 月 2-8 日 渡邊学が“Rethinking Embodiment: A Japanese Contemporary Perspective”と題した CSJR 主催のワークショップ出席のためロンドンに出張。
- 6 月 3 日 Paul Swanson と奥山倫明が京都の NCC 宗教研究所主催の EGSID グループの会合に参加。
- 6 月 3-4 日 Benjamin Dorman が同志社大学での「宗教と社会」学会年次大会参加のため京都に出張。
- 6 月 9 日 愛知学院大学の林淳教授を招き、同氏の『近世陰陽道の研究』について「日本近世宗教史を再考する」というテーマの下、書評・討論会を行った。評者は木

- 場明志（大谷大学）、遠藤潤（國學院大学）、大谷栄一（南山宗教文化研究所）の3氏。27名が参加。
- 6月22日 Robert Roche 氏を招いて南山諸宗教研究講座（ローチ・チェア）の開講レセプションを行い、学長はじめ大学関係者らが多数、出席した。
- 6月30日 GPSS「科学・ころろ・宗教」シリーズの第11回懇話会。東京大学の西平直教授が「アイデンティティとスピリチュアリティ——非実体的脱自的な存在理解の地平から」を発表。36名が参加。
- 7月1日 James Heisig、Paul Swanson、渡邊学が日本宗教学会の理事会・諸委員会に出席のため東京へ出張。
- 7月1-13日 奥山倫明がパリでの International Society for the Comparative Study of Civilizations の年次大会参加およびサンタ・バーバラの Institute for United States Studies での招待講演のため出張。
- 7月5日 Paul Swanson が、上智大学の Faculty of Liberal Arts の創立を記念して開かれた「大学における宗教の役割」のパネル参加のため東京に出張。
- 7月6日 Keller Kimbrough 客員研究員が所内研究会で“Narrating the Six Realms: Supernatural Travelers’ Tales of Late Medieval Japan.” を発表。
- 7月15日 当研究所メンバーらによる毎年恒例のガーデン・パーティをパウルスハイムにて開催。
- 7月25日 Jacynthe Tremblay 氏がフランス語による日本哲学選集の編纂に関する3ヶ月間の研究のため来所。
- 7月26日-8月1日 Paul Swanson が GPSS のワークショップ参加のためパリに出張
- 7月29-30日 渡邊学が筑波大学倫理学会の会合（年2回開催）で発表するために箱根に出張。
- 8月6日 奥山倫明がパリで6ヶ月のサバティカル。
- 8月21日-9月12日 当研究所の2階が全研究室のアスベスト除去のため閉鎖。
- 9月1日 スウェーデン Lund University の Christina and Manfred Hofmann 博士夫妻が2ヶ月の研究のため来所。
- 9月15-18日 Paul Swanson、渡邊学、Benjamin Dorman が東北大学での日本宗教学会年次大会参加のため仙台に出張。
- 9月24-28日 Paul Swanson が天台仏教発祥の地、中国の天台山を初訪問。
- 10月1日 Keel Hee-Sung が第2代南山諸宗教研究講座（ローチ・チェア）に着任。任期は1年。
- 10月6日 GPSS「科学・ころろ・宗教」シリーズの第12回懇話会。脳科学者の入来篤史氏が「知性の神経生物学——象徴思考進化の萌芽を道具を使うサル的大脑に探る」を発表。36名が参加。
- 10月10日 University of Barcelona の Jesus Blas Vicens 教授が環境問題への仏教的アプローチを研究するため6週間の滞在。妻 Angels と娘 Claudia も2週間滞在。
- 10月18-22日 James Heisig が GPSS「科学・ころろ・宗教」プロジェクトと日本哲学プロジェクト関係の会合および講演のためにボローニャとベルリンに出張。
- 10月27日 渡邊学が立正大学で「修行と身体」というテーマの講演を行うため東京に出張。
- 10月30日-11月5日 ザンビアの St. Augustine National Major Seminary 講師 Andrej Poukhaev 氏が来所。

- 10 月 31 日 St. Lawrence University の Erin McCarthy 氏が和辻哲郎に関するプロジェクトの仕事のため短期研究滞在。
- 12 月 5 日
- 11 月 10 日 Paul Swanson が「認知発達の比較研究」についての研究のための新ファンド設立を祝うベネッセ後援による Jane Goodall と松沢哲郎の両氏との夕食会に参加。
- 11 月 11 日 チンパンジー研究で世界的に知られ国連平和大使でもある Jane Goodall 氏が南山大学で講演。当研究所などが後援。
- 11 月 16 日 イタリアの Andrea Molle 氏が日本学術振興会からのスカラシップで 2 年の日本宗教研究のため来所。
- 11 月 18-21 日 渡邊学と Benjamin Dorman が American Academy of Religion の年次大会参加のためワシントンに出張。
- 11 月 28 日 Rosemary Morrison が日本哲学プロジェクトの関連で 1 ヶ月ほどの和辻哲郎の翻訳準備のため来所。
- 12 月 1-3 日 Paul Swanson が理化学研究所および GPSS の参加者らを訪問するため東京に出張。
- 12 月 7 日 天理大学の岡田正彦准教授を迎え、同氏が翻訳したジェームス・E・ケテラー『邪教 / 殉教の明治——廃仏毀釈と近代仏教』の書評会を開催。評者は羽賀祥二（名古屋大学）、林淳（愛知学院大学）、川上恒雄（南山宗教文化研究所）の 3 氏、コーディネーターは大谷栄一（南山宗教文化研究所）がつとめた。31 名が参加。
- 12 月 8 日 所員の年末パーティ。
- 12 月 13 日 教団付置研究会の第 1 回宗教間対話研究部会。テーマは「宗教における『救い』とは?」。当研究所の Paul Swanson と日蓮現代宗教研究所の影山教俊氏が基調報告。30 名が参加。
- 12 月 15 日 Alena Govorounova 氏が研究例会で「キリスト教と仏教における生命倫理をめぐる諸問題——科学と宗教の統合は可能か」を発表。9 名が参加。
- 12 月 26-27 日 Paul Swanson が CORMOS の第 53 回研究会議でパネル「祈りと供養」のチェアをつとめるため京都に出張。
- 12 月 27 日 James Heisig（編）*Frontiers of Japanese Philosophy* が印刷会社から届く。

2007 年

- 1 月 1 日 ハワイ Brigham Young University の Timothy Richardson 氏が家族とともに 4 ヶ月の研究のため来所。James Heisig と共同で簡体中国語と繁体中国語に関するシリーズ本の編集作業。
- 1 月 13-14 日 Benjamin Dorman が國學院大学での記念国際シンポジウム「ひらかれる学術資産——学術メディアセンターの展望」にコメンテーターとして参加のため東京に出張。
- 1 月 26-27 日 Paul Swanson が Andrea Molle 氏の研究支援および日本宗教学会理事会出席のため東京に出張。
- 1 月 29 日 奥山倫明がパリでのサバティカルを終え帰国。
- 2 月 2 日 Universidade Católica de São Paulo の Rafael Shoji 氏が 2 ヶ月の研究のため来所。

- 2月3日 Paul Swanson、渡邊学、奥山倫明が上智大学でのEGSIDの会合出席のため東京に出張。
- 2月23日 GPSS「科学・ころ・宗教」シリーズの第13回懇話会。科学史研究の中山茂・神奈川大学名誉教授が「東洋医学文献に現れた〈気〉と〈心〉」を発表。39名が参加。
- 3月4-26日 奥山倫明が南米の「国家と宗教」問題についての研究のためブラジルに出張。
- 3月5-6日 Paul Swanson が国際宗教研究所の委員会等に参加のため東京に出張。
- 3月6-15日 James Heisig が日本哲学の長期プロジェクトの一環として「日本哲学と科学」のワークショップ参加のためアメリカのテクニーに出張。
- 3月7日 Paul Swanson が同志社大学一神教学際研究センターの「日本宗教から一神教への提言」研究グループの初会合出席のため京都に出張。
- 3月17日 Paul Swanson が『宗教研究』編集委員会に出席のため東京に出張。
- 3月19日 Benjamin Dorman が所内セミナーで、出版を検討している“Covering the ‘Rush Hour’: Reporting New Religions in Occupied Japan.”について発表。
- 3月19日 James Heisig 著 *Filozofi ništavila: Esej o Kyoto školi* がサラエヴォの出版社から届く。
- 3月22-27日 Paul Swanson と Benjamin Dorman が Association for Asian Studies の年次大会に出席のためボストンに出張。Paul Swanson はミネソタ大学での Bob Dylan Symposium で発表（3月25-27日）。Benjamin Dorman はシカゴの ATLA (American Theological Library Association) 本部を訪問し、同機関のデータベースおよびジャーナルの出版と宣伝について話を聞く。
- 3月29日 ランカスター大学の川並宏子氏が研究例会で“Women in Buddhism: Understanding the Struggle.”を発表。15名が参加。

その他の訪問者

2006 年

- 4月24日 Fredrik Stromberg, Ph.D. student in the Philosophy Department at Uppsala University in Sweden.
- 4月28日 Cornelia Dragusin, Ph.D. candidate at the Australian National University.
- 5月8日 Naoko Frances Hioki, Ph.D. Candidate at the Graduate Theological Union, Berkeley, USA.
- 5月31日 Mark MacWilliams, Professor in the Religious Studies Department of St. Lawrence University
- 6月7-8日 Jamie Hubbard, Yehan Numata Lecturer in Buddhist Studies Department of Religion and Biblical Literature at Smith College.
- 7月2-3日 Notre Dame University の Larry Sullivan と上智大学の Richard Gardner の両氏.
- 7月14-15日 Lucia Dolce (SOAS, University of London) と松本郁代（日本学術振興会 PD）の両氏.
- 7月18-20日 Gereon Kopf, Assistant Professor for Asian and comparative religion at Luther College, Iowa.

- 7 月 25 日 龍谷大学の Galen Amstutz 教授 .
- 7 月 31 日 林鎮國 (台湾、国立政治大学教授), 張政遠 (東北大学大学院), 林永強 (京都大学
外国人特別研究員) の 3 氏 .
- 8 月 18 日 Mark Blum, professor at the State University of New York.
- 10 月 4 日 Dr. Evgeny S. Steiner, adjunct professor at New York University and member of the
Institute of Synergetic Anthropology (Moscow).
- 11 月 1 日 広島大学に客員教授として来日していた University of Amsterdam の Karel van der
Leeuw 教授 .

2007 年

- 1 月 17-18 日 Elena Lange, a doctoral candidate from the University of Hamburg, Germany.
- 3 月 1 日 慶應義塾大学日本語・日本文化教育センターの学生 Karl Rosvold 氏 .
- 3 月 2 日 Clinton Godart, PhD. student from the University of Chicago.

研究所のスタッフの研究業績

2006 年 4 月 ～ 2007 年 3 月

ベンジャミン・ドーマン Benjamin Dorman (編集員)

- 著 書 (ed with Ian Reader) *Projections and Representations of Religion in Japanese Media*. Special issue of *Nova Religio* 10/3 (2007).
- 論 文 “Religious Politics, Japanese Style.” *Religion in the News* 9/1 (2006).
(with Ian Reader) “Editors’ Introduction: Projections and Representations of Religion in Japanese Media.” (*ibid.*, 5–13).
“Representing Ancestor Worship as ‘Non-Religious’: Hosoki Kazuko’s Divination in the Post-Aum Era.” (*ibid.*, 32–53).
- 学会発表 コメンテーター「記念国際シンポジウム：ひらかれる学術資産——学術メディアセンターの展望」國學院大学, 2007 年 1 月 13 日.
“Print Media and New Religions: Historical Perspectives.” 所内セミナー, 南山宗教文化研究所, 2007 年 3 月 19 日.
- 翻 訳 大谷栄一, 「Ranjana Mukhopadhyaya, 日本の社会参加仏教——法音寺と立正佼成会 of 社会活動と社会倫理」、(書評) *Japanese Journal of Religious Studies*. 33/1 (2006): 202–205.
- 寄 稿 「メディアにおける宗教の表象」, 研究覚え書き『東洋哲学研究』2006 年第 45 巻 第 1 号 p. 230.

ジェームズ・W・ハイジック James W. Heisig (第一種研究所員、人文学部教授)

- 著 書 (ed.) *Frontiers of Japanese Philosophy*. (Nagoya: Nanzan Institute for Religion and Culture, 2006), xii + 313 pages. Foreword, xi–xii.
(with Robert Rauther). *Die Kanji lernen und behalten II. Systematische Anleitung zu den Lesungen der japanischen Schriftzeichen*. (Frankfurt am Main: Vittorio Klostermann Verlag, 2006), 400 pages.
(with Klaus Gresbrand). *Die Kana lernen und behalten. Die japanische Silbenschriften lesen und schreiben in je drei Stunden*. (Frankfurt am Main: Vittorio Klostermann Verlag, 2006), 160 pages.
Filozofija ništavila: Esej o Kyoto školi. (Sarajevo: Kult-B, 2007), 428 pages, with a new Preface

(13-19).

El Gemelo de Jesus: Un alumbramiento al budismo. (Barcelona: Herder Editorial), 219 pages.
(ed. with Edmund Chia) *A Longing for Peace: The Challenge of a Multicultural, Multi-religious World.* (Bilbao), xxii-440 pp.

論文

“Prefazione” a Ueda Shizuteru, *Zen e filosofia* (Palermo: L'Epos), 15-35, 2006.

“Śūnyatā e Kenōsis.” *Rassegna di Teologia* 47/5 (2006): 667-85.

“Approaching the Ueda Shizuteru Collection.” *The Eastern Buddhist* 37/1-2 (2006): 254-74.

“Redefiniranje definiranja filozofije: Apologija Priručnika iz japanske filozofije,” *Odjek* (Jesen-Zim): 71-5, 2006.

“The Place of Doctrine and Philosophy in Religious Experience: A View from the East.”
Gerd Haefner, ed., *Religiose Erfahrung ii. Interkulturelle Perspektiven* (Stuttgart: Kohlhammer, 2007), 42-53

学会発表

“La mística y el Evangelio de Tomas.” *Occident as Orient: Mistica Europea I Budisme Zen*,
Universitat Pompeu Fabra, Barcelona, 2006 年 5 月 19 日 .

「河波昌『東西における無限円（球）の世界』へのレスポンス」第 25 回東西宗教
交流学会学術大会、南山大学、2006 年 7 月 27 日 .

Panel discussion on “Ways of Doing Japanese Philosophy.” Humboldt-Universität, Berlin,
2006 年 10 月 21 日 .

「長谷正當先生への問い」京都宗教哲学会、京大会館、2006 年 12 月 9 日 .

講演

“Tanabe Hajime and the Hint of a Dharmic Reality.” Keynote address to a congress on “Is
There a Dharma of History?” University of Leiden, 2006 年 5 月 29 日 .

書評

Steffen Doll, *Wozu also suchen? Zur Einführung in das Denken von Ueda Shizuteru.*
Japanese Journal of Religious Studies 33/1 (2006): 208-211.

寄稿

“A Summary Reflection.” Edmund Chia and J. W. Heisig, *A Longing for Peace, ut supra.*,
169-72.

“En religión tenemos que ser bilingües.” *Ciervo* (enero de 2007). Entrevista con Jordi Perez
Colome, Javier Melloni y Francesc Xavier Marín.

川上恒雄（かわかみ・つねお）（研究員）

学会発表 「新宗教とビジネス哲学」第 65 回日本宗教学会年次大会、東北大学、2006 年 9
月 17 日 .

「書評会：ジェームス・E・ケテラー『邪教 / 殉教の明治——廃仏毀釈と近代仏教』」
研究例会、南山宗教文化研究所、2006 年 12 月 15 日

「書評会：島蘭進『スピリチュアリティの興隆——新霊性文化とその周辺』」名古屋
屋宗教社会学史研究会、南山宗教文化研究所、2007 年 3 月 12 日

- 著 書 (ed. with Xu Shiyi 徐時儀 and Chen Wuyun 陳五雲), 『佛經音義研究——首屆佛經音義研究國際學術研討會論文集』 [Studies in the sound gloss in the Buddhist Scriptures: A collection of the papers for the First International Conference on Studies in the Buddhist Scriptures] (Shanghai: Shanghai Classics Publishing Co.), 2007, 264 pages.
- 論 文 (ポール・スワンソンと共著) 「道元禪思想研究之管朗」『中国禪学』4 (2006): 154-58.
- 「『清淨法行經』語詞考辨」 [An examination of some lexical items in the Qingjing faxing jing], Studies in Chinese Language and Culture: Festschrift in Honour of the 60th Birthday Christoph Harbsmeier, Christoph Anderl and Halvor Eifring, eds. (Oslo: Hermes Academic Publishing and Bookshop), 2006, 367-76.
- 「日本現存佛經音義及其史料價值」 [The sound gloss and its historical value in the Buddhist scriptures in Japan], Studies in the Sound Gloss in the Buddhist Scriptures, loc. cit., 2007, 186-206.
- 「『孔雀經單字』漢字研究」共著 (梁曉虹、陳五雲)『南山大学アカデミア』文学・語学編 81 号, pp. 147-175, 2007 年 1 月。
- 学会発表 「『孔雀經單字』漢字研究」日本中国語学会第 56 回大会 (愛知県立大学、2006 年 10 月)
- 「禪林句集 (句双紙) と漢語の熟語研究」日本関西地区中国語教師交流協会十周年記念討論会 (中国駐大阪総領事館教育室、2006 年 12 月 10 日)。

奥山倫明 (おくやま・みちあき) (第一種研究所員、人文学部助教授)

- 論 文 “Religion and Japanese Constitutional Law.” 『アカデミア』 (人文社会科学編) 133-47, 2006.
- 学会発表 コメンテーター「シンポジウム：宗教と現代アメリカ社会」アメリカ学会年次大会、南山大学、2006 年 6 月 10 日。
- “Animism and Spiritualism in Shinto.” Annual Meeting of the International Society for the Comparative Study of Civilizations, 2006 年 7 月 7 日。
- Invitation to the symposium, “The Copenhagen Lab of Co-Existence,” The Global Culture Forum, IT University, Copenhagen, 2006 年 9 月 5-6 日。
- “Contemporary Shinto as a Focus of Polemics.” France-Japan International Joint Seminar “Religion, Religious Studies and Nationalism in Contemporary Japan.” École des Hautes Études en Sciences Sociales, Paris, 2006 年 11 月 3 日
- 講 演 “Religion and Society in Modern Japan,” Institute for Church-State Relations, Bratislava, Slovakia, 2006 年 12 月 5 日。
- “Sociological Overview of the Modern Japanese Religions,” Department of Sociology and the Information Center for the Study of New Religious Movements, South-West University “Neofit Rilski,” Blagoevgrad, Bulgaria, 2006 年 12 月 13 日。

- 著 書 （報告書）『近代日本の宗教運動の政治的機能に関する実証的研究』（研究代表者：大谷英一、平成 17～19 年度科学研究費補助金若手研究 (B)、課題番号 17720012）、2007 年、前 128 頁。
- 論 文 「妹尾義郎の社会的仏教」『福神』11 号、太田出版、2006 年、98-111 頁。
「近代日本の『仏教と政治』のクロスロード」『南山宗教文化研究所所報』16 号、南山宗教文化研究所、2006 年、35-47 頁。
「戦前期日本の日蓮仏教にみる戦争観」『公共宗教』3 巻 1 号、千葉大学公共研究センター、2006 年、79-100 頁。
「公共宗教としての仏教？」末本文美士編『現代と仏教——いま、仏教が問うもの、問われるもの』佼成出版社、2006 年、160-177 頁。
「近代仏教運動の政治参加の分析——大日本日蓮主義青年団と新興仏教青年同盟の事例」研究成果報告書『近代日本の宗教運動の政治的機能に関する実証的研究』（研究代表者：大谷栄一、平成 17～18 年度科学研究費補助金若手研究 (B)、課題番号 17720012）、2007 年、7-30 頁。
「近代日本の法華系在家仏教教団にみる死生観」『東洋学研究』別冊、東洋大学東洋学研究所、2007 年、101-113 頁。
「近代日本の『政治と仏教』のクロスロード」（研究代表者：丸岡高弘、2006 年度地域研究センター共同研究『宗教と政治のインターフェイス——宗教が政治的課題となる領域とその機能についての間地域的比較研究』中間成果報告書、南山大学地域研究センター）、2007 年、23-34 頁。
- 書 評 「はじめに」「書評 2」、『南山宗教文化研究所所報』16 号、南山宗教文化研究所、2006 年、11-12 頁、15-17 頁。
「Ranjana Mukhopadhyaya, 日本の社会参加仏教——法音寺と立正佼成会の社会活動と社会倫理」（translated by Benjamin Dorman）*Japanese Journal of Religious Studies*. 33/1（2006）202-05。
「浅尾篤哉編『三浦参玄洞論説集』」、『近代仏教』13 号、2007 年、87-92 頁。
- 学会発表 「日蓮主義の女性観」「日本におけるフェミニズムと宗教研究の再編成」科学研究会平成 18 年度第 1 回研究会、名古屋工業大学、2006 年 4 月 1 日。
「戦前期日本における仏教運動のポリティクス——1930 年代の新興仏教青年同盟の事例」「宗教と社会」学会第 14 回学術大会、同志社大学、2006 年 6 月 3 日。
「コメント 林宗教史学の射程」南山宗教文化研究所懇話会「近世日本宗教史を問い直す——林 淳『近世陰陽道の研究』を通じて」、南山宗教文化研究所、2006 年 6 月 9 日。
「近代日本の『仏教と政治』のクロスロード」地域研究センター共同研究「宗教と政治のインターフェイス」第 2 回研究会、南山大学、2006 年 6 月 14 日。
「戦前期日本の日蓮仏教と政治的アクティビズム」科研費基盤研究 (B)「ファッション期の宗教と宗教研究にかんする国際的比較研究」研究会、国立民族学博物館、2006 年 7 月 16 日。

「仏教教団の社会活動に関する先行研究」「宗教の社会貢献活動研究」プロジェクト第1回研究会、國學院大學、2006年7月22日。

「コメント 『信仰』という経験の意味をどのように分析・記述するのか？」社会科学基礎論研究会第14回合評会、大正大学、2006年10月8日。

「地域社会における仏教運動の社会的機能の分析——1920年代の山梨県における大日本日蓮主義青年団の事例」第79回日本社会学会大会、立命館大学、2006年10月28日。

「コメント 『死と死別の社会学』をめぐる幾つかの問い」シュッツ＝パーソンズ研究会、慶應義塾大学、2006年11月11日。

「コメント 宗教研究の二分法と宗教研究者の立場性」科研費基盤研究(B)「ファシズム期の宗教と宗教研究にかんする国際的比較研究」研究会、信州大学、2006年11月25日。

「コメント 『慰霊と顕彰の間』はどのように問われたか？」國學院大學研究開発推進センター「慰霊と追悼研究会」シンポジウム、國學院大學、2007年2月10日。

「コメント 概念、当事者性、見取図をめぐる幾つかの問い」名古屋宗教社会学史研究会、南山宗教文化研究所、2007年3月12日。

「『近代仏教運動のポリティクス』を問うために」「近代と仏教」研究会、天理大学、2007年3月17日。

寄稿 「書評 会史『清き流れを』が問いかけるもの」『週刊仏教タイムス』2006年11月30日号、仏教タイムス社、2006年、3頁。

ポール・スワンソン Paul L. Swanson (第一種研究所員、人文学部教授)

論文 A espiritualidade do Vazio no Budismo Chines,” in *A Espiritualidade Budista: Índia, Sudeste Asiático, Tibete e China Primitiva*, Takeuchi Yoshinori, org., em associação com Jan Van Bragt, James W. Heisig, Joseph S. O’Leary e Paul L. Swanson (São Paulo: Perspectiva, 2006), 411–36.

(梁曉虹と共著)「道元禅思想研究之管朗」『中国禅学』4(2006): 154–58.

翻訳 Review of Ian Reader, *Making Pilgrimages: Meaning and Practice in Shikoku*, by Shinno Toshikazu 真野俊和, *Japanese Journal of Religious Studies* 33/1 (2006): 169–74.

学会発表 Panel on “Recent Surveys of Japanese Religions: Religious Traditions of Japan and Nanzan Guide to Japanese Religions.” Association for Asian Studies Annual Meeting, San Francisco, 2006年4月8日。

“Teaching Religion at Nanzan University.” Symposium on “The Roles of Religion in the University.” 上智大学、2006年7月5日。

「『救い』とは何か？」第1回教団付置研究会宗教間対話研究部会、南山宗教文化研究所、2006年12月13日。

“Beyond Budōkan: Bob Dylan in Japan.” Bob Dylan Symposium, University of Minnesota, Weisman Art Center, 2007年3月27日。

- 講演 「[サイエンスカフェ]で松沢哲郎氏と対談」「心の進化——比較認知科学と宗教学との対話」三省堂書店（名古屋）、2006年4月22日。
- 寄稿 “Japan Society for Buddhist-Christian Studies 2005 Annual Meeting,” *Buddhist-Christian Studies* 26: 183-84 (2006).

渡邊 学 （わたなべ・まなぶ）（第一種研究所員、総合政策学部教授）

- 論文 「宗教の危機をめぐって」島蘭進・永見勇（監修）『スピリチュアリティといのちの未来——危機の時代における科学と宗教』人文書院、2007年、327-41。
「過程としての回心——継続的回心体験の3事例の比較研究」『カルト問題と社会秩序——公共性の構築に関わる比較社会論的検討』2007年、35-47頁（研究代表者：櫻井義秀、平成16～18年度科学研究費補助金基盤研究（B）（1）、研究成果報告書研究課題番号：16320010）「宗教の危機」『南山宗教文化研究所研究所報』15: 33-41、2005年。
- 学会発表 “The Life and the Work of Professor Yasuo Yuasa (1925-2005).” CSJR Workshop 2006
“Rethinking embodiment: a Japanese contemporary perspective: A workshop in commemoration of Professor Yasuo Yuasa (1925-2005).” Centre for the Study of Japanese Religions, SOAS, University of London, 2006年6月5日。
“Imagining the Body in the Contemporary Japanese Context: Yasuo Yuasa's Contribution.” CSJR Workshop 2006（同上）2006年6月6日。
「湯浅泰雄の身体論とその展開」筑波大学倫理学研究会、箱根静雲荘、2006年7月29日。
「身体論としての修行論」日本宗教学会年次大会、東北大学、2006年9月18日。
- 講演 「修行と身体」立正大学、2006年10月27日。
- 寄稿 「追悼 湯浅泰雄（1925-2005）」『南山宗教文化研究所研究所報』16 (2006): 48-51。
“In Memorium: Yuasa Yasuo (1925-2005),” *Bulletin* 30 (2006): 55-61. Nanzan Institute for Religion and Culture.

Japanese Journal of Religious Studies

Volume 33 (2006) の目次

論 文

- AMSTUTZ, Galen, and Mark L. BLUM. Editors' Introduction: Pure Lands in Japanese Religion. 33/2: 217–21.
- ANDREEVA, Anna. Saidaiji Monks and Esoteric Kami Worship at Ise and Miwa. 33/2: 349–77.
- ARICHI, Meri. *Sannō Miya Mandara*: The Iconography of Pure Land on this Earth. 33/2: 319–48.
- CLARKE, Shayne. Miscellaneous Musings on Mūlasarvāstivāda Monks: The *Mūlasarvāstivāda Vinaya* Revival in Tokugawa Japan. 33/1: 1–49.
- JOSEPHSON, Jason Ānanda. When Buddhism Became a “Religion”: Religion and Superstition in the Writings of Inoue Enryō. 33/1: 143–68.
- KIMBROUGH, R. Keller. Tourists in Paradise: Writing the Pure Land in Medieval Japanese Fiction. 33/2: 269–96. [Translation; The Tale of the Fuji Cave. Online only: 1–22]
- KNECHT, Peter. *Ise sankei mandara* and the Image of the Pure Land. 33/2: 223–48.
- LEE, William. Entering the Pure Land: *Hanamatsuri* and the *Ōkagura Jōdo-iri* Ritual of Okumikawa. 33/2: 249–68.
- LUDVIK, Catherine. In the Service of the *Kaihōgyō* Practitioners of Mt. Hiei: The Stopping-Obstacles Confraternity (Sokushō kō) of Kyoto. 33/1: 115–42.
- MACK, Karen. The Phenomenon of Invoking Fudō for Pure Land Rebirth in Image and Text. 33/2: 297–317.
- MEEKS, Lori R., Reconfiguring Ritual Authenticity: The Ordination Traditions of Aristocratic Women in Premodern Japan. 33/1: 51–74.
- NENZI, Laura. To Ise at All Costs: Religious and Economic Implications of Early Modern *Nukemairi*. 33/1: 75–114.
- YOSHIDA, Tomoko. Kuroda Toshio (1926–1993) on Jōdo Shinshū: Problems in Modern Historiography. 33/2: 379–412.

書 評

- BODIFORD, William M., ed., *Going Forth: Visions of Buddhist Vinaya*. Rev. by John Powers. 33/1: 194–98.

- DÖLL, Steffen, *Wozu also suchen? Zur Einführung in das Denken von Ueda Shizuteru*. Rev. by James Heisig. 33/1: 208–11.
- FOWLER, Sherry D., *Murōji: Rearranging Art and History at a Japanese Buddhist Temple*. Rev. by Adrian Snodgrass. 33/1: 187–90.
- KAMINISHI, Ikumi, *Explaining Pictures: Buddhist Propaganda and Etoki Storytelling in Japan*. Rev. by R. Keller Kimbrough. 33/1: 190–94.
- KAWANO, Satsuki, *Ritual Practice in Modern Japan: Ordering Place, People, and Action*. Rev. by Scott Schnell. 33/1: 178–81.
- KIBLINGER, Kristin Beise, *Buddhist Inclusivism: Attitudes towards Religious Others*. Rev. by Amos Young. 33/1: 211–14.
- KIRCHNER, Thomas Yūhō, *Entangling Vines: Zen Koans of the Shūmon Kattōshū*. Rev. by Taigen Dan Leighton. 33/1: 198–202.
- LOPEZ, Donald S., ed., *Critical Terms for the Study of Buddhism*. Rev. by Joseph S. O’Leary. 33/1: 182–86.
- MOERMAN, D. Max, *Localizing Paradise: Kumano Pilgrimage and the Religious Landscape of Pre-modern Japan*. Rev. by Paul Swanson. 33/2: 418–20.
- MUKHOPADHYAYA, Ranjana, *Nihon no shakai sankā Bukkyō: Hōonji to Risshō Kōseikai no shakai katsudō to shakai rinri*. Rev. by Ōtani Eiichi. 33/1: 202–205.
- PAYNE, Richard K., and Kenneth K. TANAKA, eds., *Approaching the Land of Bliss: Religious Praxis in the Cult of Amitābha*. Rev. by James Dobbins. 33/2: 413–18.
- READER, Ian, *Making Pilgrimages: Meaning and Practice in Shikoku*. Rev. by Shinno Toshikazu. 33/1: 169–74.
- REPP, Martin, *Hōnens religiöses Denken. Eine Untersuchung zu Strukturen religiöser Erneuerung*. Rev. by Jan Van Bragt. 33/1: 205–208.
- WILLIAMS, Duncan Ryūken, *The Other Side of Zen: A Social History of Sōtō Zen: Buddhism in Tokugawa Japan*. Rev. by Michel Mohr. 33/1: 175–78.

研究所のスタッフ

2006 年 4 月 ~ 2007 年 3 月

第一種研究所員

Paul L. SWANSON

James W. HEISIG

奥山 倫明

渡邊 学

第二種研究所員

梁 曉虹

編集員

Benjamin DORMAN

研究員

大谷 栄一

川上 恒雄

非常勤研究員

Joel BRADSHAW

Enrico FONGARO

Alena GOVOROUNOVA

長谷川 恵美

平島 みさ

堀 雅彦

岩本 明美

金 承哲

Ranjana MUKHOPADHYAYA

長谷 千代子

坂井 祐円

鷺見 朗子

寺尾 寿芳

Tiziano TOSOLINI

Jacynthe TREMBLAY

山口 亜紀

山梨 有希子

客員研究所員

Andrea MOLLE

Audrius BEINORIUS

Keller KIMBROUGH

Paul ATKINS

Christina HOFMANN

Manfred HOFMANN

Erin MCCARTHY

Rosemary MORRISON

Timothy W. RICHARDSON

三田 一郎

Scott SCHNELL

Rafael SHOJI

Jesús Blas VICENS

諸宗教研究講座

客員研究所員

Thomas P. KASULIS

KEEL Hee-Sung